

「依存（のめり込み）問題対応ガイドライン」

遊技産業活性化委員会が制定

4月17日に東京で研修会スタート

遊技産業活性化委員会（委員長・伊坂重憲全日遊連副理事長。全日遊連、日遊協、日工組、日電協、全商協、回胴遊商で構成）が2月18日、日遊協本部会議室で開かれた。スピードアップを図るため、

「パチンコ店における依存（のめり込み）問題対応ガイドライン（案）」が決議され、同日制定された。ガイドラインは、昨年8月に日遊協の依存問題PT（プロジェクトチーム）が先行して策定に着手、10月に活性化委員会の依存（のめり込み）問題WG（ワーキンググループ）がオブザーバー参加の形で合流する中、同年末に完成した。日遊協は1月8日の第5回定例理事会で一足先にこのガイドラインを承認したが、その後、各団体の要望を入れて一部を修正し、改めて今回の活性化委員会に提案されて

前回の委員会（1月16日）の決定に沿って6団体のトップを加えた新体制で行われた。さらに、警察庁保安課から大門雅弘課長補佐ら3人がオブザーバーで出席した。

用語を統一し、自主性強調

修正した部分は、用語の「依存問題」を「依存（のめり込み）問題」と統一したこと、強制と受けとられないよう「自主的な活用」を強調したこと、各団体の取り組みを紹介するページを設けたこと等となっている。

決議された。

パチンコ業界の依存問題については、昨年来、カジノ法案の関連や厚労省研究班の調査結果（「日本人のギャンブル依存症536万人？」）などから、メディアでの批判的な扱いが続いていた。さらに国会でもカジノ法案の再提出が予

想されるところから、業界での抜本的な対策が急がれていた。また、警察庁からも昨年8月、業界の依存対策に関して、「現在行われている対策の拡大方策あるいは新規の対策を、社会情勢も踏まえて抜本的に考えるよう」、強く要請されていた。

各支部も順次、店舗で具体化

ガイドラインが制定されたことで、日遊協は4月17日に東京都・関東支部が東京・東上野、オーラムで、事業者・スタッフ対象にガイドラインを使った「依存（のめり込

み）問題・置きき対策等研修会」を予定し、これを皮切りに支部単位でも同様の研修会を開いて、店舗での実効ある依存対策構築に努めていく。研修会には各地区遊協に



依存問題対応ガイドラインの決議等を行った遊技産業活性化委員会

も呼びかけ、できるだけ合同で催したいとしている。(4〜13Pにガ

日工組が「低射幸機」を提案

イドライン全文。36〜41Pに安藤博文PTRリーダーへのインタビュー)

日工組から「『のめり込み』対策について」と題する提案があった。

この中で、消費金額を抑えるために、①大当たり確率の下限(現行では400分の1まで)を上げる ②

初回の大当たり獲得玉数の最低限の値(現行では基準なし)を確保する——ことを検討中であることが

説明された。この措置による根拠・効果として、初回の大当たり

までの消費金額を抑えるとともに、大当たり確率の下限を上げること

で、遊技機の性能として、獲得賞品総額の期待値が下がるとしている。

さらに、①②に該当しない機種種の販売は、本年のある時期以降行わないことを検討中で、その時期を近く発表することを明らかにした。

金沢全求日工組理事長は「セブン機二辺倒で、金太郎鮎みたいな感じをつくっていたことがファン離れを起したことはメーカーの中で確認し合っており、バラエティーに富んだ機種構成にしよう」と話し合っている。ただ、ホールに賛同しても

らい買ってもらわないと、つくっても意味がない。皆さんも相談に乗っていただきたい」と述べた。

日遊協と自工会など設備機器メーカーで進めている「自己申告プ

遊技機検討WG

開発状況の調査結果を提示

初心者用の条件満たす遊技機

遊技産業活性化委員会の遊技機検討WG(ワーキンググループ)が

2月25日、全日遊連会議室で開かれた。日工組から射幸性の抑制に向けた取り組みの1つとして、消費金額を抑えるため、「大当たり確率の下限を上げる」など2月18日に遊技産業活性化委員会に提案

プログラム」の仕様の凶解による説明と、策定の途中経過とが報告された。「置引き防止マニュアル作成のスケジュール」案が、全日遊連から提出された。「業界が取り組み」案が、日電協・回胴遊商から提出された。遊技産業PRWG(ワーキンググループ)の検討状況が報告された。

された内容が説明され、具体的な対応が話し合われた。

さらに、多種多様な遊技機の開発に関して、初心者(または初級者)にも分かりやすい遊技機(潜伏確変のない遊技機)で、「出玉なし、時短なし確変を搭載しない」「大当たり確率が200分の1まで」など7つの条件に該当する遊技機について開発状況が示された。

これら新しい遊技機のホールへの導入促進に向けて同じ活性化委員会の遊技産業PRWGとの連携を密に図っていくことを確認した。また機械のネーミングについては、「遊パチ」に新バージョン的な意味を加えて使ったらどうか」との意見が出された。

日遊協正副会長会議

「団体加盟」で文書確認 「置引き対策手引き」など報告

日遊協正副会長会議が2月25日、本部会議室で開かれ当面の課題について協議した。日工組の日遊協への団体加盟に関連して、「日遊協団体会員に関する規程(案)」と「日遊協への日工組の団体加入に関する合意書(案)」の説明が行われ、細部にわたる質疑及び協議を経て承認された。今後、日工組との最終的な詰めを行ったうえで、内閣府の公益法人等認定委員会に申請される。「依存問題対応ガイドライン」については、2月18日に活性化委員会でも正式決定するまでの経過が説明され、現在の日遊協PTと活性化委員会WGの合同について、これからの運営の在り方を協議した。「置引き防止対策に関する手引き」の素案が示され、質疑が行われた。

出席者次の通り。(敬称略)

会長 庄司孝輝 副会長 大久保正博、兼次民喜、筒井公久、韓裕、福井章(近畿支部長)、山田久雄、和久田守彦 本部 篠原弘志(専務理事)、伊東慎吾(常務理事)



射幸性を抑えた遊技機について協議した遊技機検討WG